

## 令和6年度高知県学力定着状況調査の公表に係る県教育長コメント

令和7年2月20日

高知県学力定着状況調査及び質問調査は、児童生徒一人一人の学習課題の改善状況を把握し、残る課題に適切に対応することを通して基礎的な学力をしっかりと定着させることを大きな目的として、小学校第4・5学年及び中学校第1・2学年を対象に実施しています。

今年度の結果をみてみますと、小学校については、4年生、5年生の国語と5年生の算数・理科において、目標とするレベル（以下、目標値という）に到達しており、学力が一定定着してきていると考えます。しかし、4年生の算数は、目標値を2ポイント下回りました。全国学力・学習状況調査と同様に、知識を活用して問題を解決するといった思考力などのトータルな力の育成といった点では、まだ課題がみられています。

中学校では、全ての教科において、目標値を下回る結果となっています。数学においては、例えば、「連続する3つの整数の和は3の倍数になる」といったような数の性質を文字式を使って説明することに、引き続き課題がみられます。英語は、特に、文法を正しく用いてまとまりのある文章を書くことに課題がみられています。まず、文法や単語など基本的事項の理解と定着を図ることが必要です。さらに、文章を書いた後には、その表現が適切かを確認し、推敲するなどの学習活動もくり返し行うことが重要です。

質問調査においては、「自分にはよいところがあると思いますか。」の質問に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合が、昨年度と比較すると、どの学年においても増加しています。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の質問に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合も増加しています。学校の中で、子どもたちが主体的に活動する場面や教員による適切な評価がなされることが増え、それが子どもたちの自己肯定感の向上につながっているものと考えます。

学習時間については、「学校の授業以外に（平日）1日にどれくらいの時間、勉強をしますか。」の質問に対して、「全くしない」と回答した児童生徒の割合は昨年度より減少しており、改善の兆しが少しずつみられます。しかし、依然として県が目指す目標である5%以下に達しておらず、授業外学習の習慣の定着には引き続き課題があると捉えています。

県教育委員会としましては、本調査から明らかになった課題を改善するために、市町村教育委員会とともに各学校の取組を支援し、組織的な学力向上検証サイクルを確立させるよう取り組んでまいります。次年度においては、子どもたちの主体的な学びを充実させるよう、学びをサポートする対話型AIを導入した実証研究も行なってまいります。

市町村教育委員会や学校におきましては、今回の調査結果から得られた取組の成果や課題を明らかにして、一人一人の児童生徒への学力補完を確実に行うとともに、今後の学習指導の改善に役立てていただきたいと思います。

ご家庭におかれましては、子どもたちが持ち帰る今回の調査結果の個人票をご覧になって、子どもたちの頑張りを褒め、また、家庭等での学習習慣の定着にご協力をお願いいたします。

高知県教育長 長岡 幹泰

※目標値とは、複数の自治体の調査結果（平均正答率）や、本県の教育振興基本計画に定める学力の測定指標をもとに、本県児童生徒に達成してほしい基準として設定した値。